

〈結婚式〉



林 晴美さん
上田 成人さん

五月二十四日挙式



伊藤 順子さん
福森 聖さん

五月二十五日挙式



高山 尚子さん
須黒 大誉さん

結婚式予約状況

二〇一四年

☆九月十四日

宮谷家

☆十月十九日

有賀家

☆十一月二十九日

荒田家

二〇一五年

☆一月三十一日

村松家

☆五月三十日

東谷家

詳細はHPをご覧ください。

〈七月の法座案内〉

宗祖を訪ねて

- 七月三日 (木) 十四時〜 輪番
- 八月三日 (日) 十四時〜 輪番
- 九月三日 (水) 十四時〜 輪番

味読正信偈

- 七月 十三日(日) 九時半〜 輪番
- 八月 二十三日(土) 九時半〜 輪番
- 九月 十三日(土) 九時半〜 輪番

盂蘭盆会

- 八月 十三日(水) 九時半〜
- 長浜教区第十二組 即往寺 住職 京極 眞了 師

秋季彼岸会

- 九月 二十三日(火) 九時半〜
- 本願寺派奈良教学寺住職 板橋 宏憲 師

朝の法話のご案内

(各日朝六時四五分より)

○七月二十五日(金) 講題「あなたは仏様になりたいですか」

―念仏成仏是真宗―
大谷大学名誉教授・元教学研究所有長 小川一乗 師

○七月二十六日(土) 講題「ただ念仏して」

北海道教学研究所有長・北海道北第三組即信寺住職 亀谷享 師

○七月二十七日(日) 講題「無有代者」

―一人身受け難し―
元北海道教学研究所有長・北海道第十五組真宗寺住職 畠山明光 師

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡 真宗大谷派(東本願寺) 岡崎別院

〒606-8335 京都市左京区岡崎天王町 26番地

電話・FAX 075-771-2921

http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com



第20号
平成26年(2014年)
7月・8月
・9月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

賢善精進の相をほかにしめして、 うちには虚仮をいだけけるものか。

歎異抄第十三条

現在当院では、真宗大谷派大谷婦人会岡崎別院支部として『蓮華の集い』と称し、「お寺で聞く子育てのお話会」の内容を実施している。その中で自分自身の子育てということについても問い返されている。

親であれば、どの親の中にも「いい親でありたい」という共通の心があるだろう。しかしながら「いい親でありたい」という心の裏側で、「いい子であらねばならない」という強制の心が潜んでいることの実事も否めないのではないかと。

私が、旭川別院在籍中に通夜のお参りに出かける際、駅前の大規模塾の前に、子が塾から出てくるのを待っている親の長い車列、その車列を見て「親ばかの車列だ」と思っていた。しかしそのほんの数年後に、「いい親でありたい」「いい子であらねばならない」とする私自身がその車列の一車両として並んで

いたことを今更ながら思い返され、苦笑せずにはいられない。今、社会人となった長男や大学三回生の次男は、「あの時はつらかった、電車に乗って塾までの足どりが重かった」などと、その当時の自らの思いを振り返る。私自身、子どものときを振り返れば、勉強や規則に縛られることも嫌だった。自分が嫌だったことを子どもに押し付けている自分がいる。

自分が「いい親でありたい」また、子どもに「いい子であらねばならない」と、賢善精進の相を子どもに示しても、すでに子どものほうこそが、私の抱いている「虚仮」を示してくれているのではないかと。私が子どもの手本になるのではなく、私の「虚仮」を示してくれる存在が子どもではないか。親子・夫婦・兄弟・同僚・師弟等、多種の関係において、私の「愚かさ」を映し出してくれる存在を宗祖は「同朋」と見いだされ、そのことに頷ける輩を「同行」と称されたのではなからうか。

現在、家庭においては個々に部屋を持ち、ますます孤立化している現状がある。それは、あたかも家族が同居人と化している現実である。わが生活においては、家族が共に「同朋」と見いだすことのできる教えに依り、「自らの愚かさ」を互いに映し出されることができていることを念じるばかりである。



**釈尊降誕会(花まつり)と
第一回子ども会の開催**

去る四月六日、花まつりと餅つきによる第一回子ども会が行われた。花まつりでは、参加者が誕生仏に甘茶をかける灌仏が行われ、甘茶で乾杯をした。その後、お餅つきが行われ、つきたてのお餅をみんなで味わった。参加者は四十名ほどで、終始賑わっていた。



**岡崎別院
聖跡参拝研修**

去る五月七日から九日、新潟県のご旧跡を巡る二泊三日の研修が行われた。別院御門徒や三日講から、全員で十四名の参加があった。参加者からは「来年は関東に行きたい」との声も出た。



く出発された。ウォーキングのコースは当院を出発して金戒光明寺↓真如堂↓安楽寺↓法然院↓北山別院↓雲母坂↓比叡山山頂付近まで。雲母坂を歩いて上る組とロープウェイで上る組に分かれ、最後に山頂付近で写真を撮って散会となった。



去る五月十一日、京都教区と教区仏青の主催による親鸞ウォークが開催された。岡崎別院が出発地点となり、輪番の挨拶の後、力強

親鸞ウォーク二〇一四



リュウシュ・マルクス氏

ドイツより研修に

去る三月七日から四月四日までの約四週間、ベルリン自由大学日本学科博士後期課程のリュウシュ・マルクス氏が「お寺での生活体験」をされた。

昨年、大谷大学に留学されたことにより、このたびはお寺で生活したいとの要望に応えた。当院滞在中は、朝食昼食を共にし、彼との対話のなかでは、真宗に対する真摯な姿勢から情性に身を任せている私の日常を問い返される機会でもあった。



花まつり (花御堂の寄贈)

四月六日に行われた花まつりにおいては、花御堂と象の看板を、山城第二組願隆寺小早川紀氏に寄贈いただいた。



**〈別院往来〉
「なむ街道を歩く」
二十五日間の旅**

去る四月一日、親鸞聖人が承元の法難で流罪になられて京都から新潟まで歩かれた足跡を、歩いてたどる旅の出発式が当院にて行われた。

新潟県立歴史博物館で開催される「親鸞となむの大地展」のプレイベントとして開催された。

本堂で出発式が行われ、参加者の中で最高齢である佐藤千代衛さん(八十歳)が宣言文を読み上げられた。全日程の参加者は十七名、当日参加を含めると約四十名であった。鐘の音を合図に、力強くスタートされた。



**真宗大谷派大谷婦人会
支部長・役員研修会**

去る四月十四日と十五日大谷婦人会の全国支部長・役員研修会が、当院を会場にして実施された。

十四日午後二時より春季永代経法要が営まれた。その後開校式があり、日豊教区徳蓮寺前住職の伊藤元師が「渡されたもの 手渡すもの」という題で講義の後、班別に分かれて座談会・攻究が行われ、最後に班別の発表が行われた。

夕事勤行の後、懇親会を兼ねた夕食がとられた。

二日目の十五日には当院お朝事にお参りされ、バスで難波別院に参詣された。